

事業コード	41030219		政策コード	05	政策名	協働社会の構築					
事業名	はつらつシニア応援事業		施策コード	03	施策名	行政と多様な主体との協働の推進					
部局名	企画振興部	課室名	地域活力創造課	指標コード	02	施策目標(指標)名	行政と多様な主体との協働の推進				
			班名	県民協働推進班		(tel)	1245	担当課長名	湯元 巖	担当者名	高村 悟

評価対象事業(計画)の内容

事業年度 平成26年度 ~ 平成29年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)  
 秋田県の高齢化率は31.6%で、全国の都道府県の中で最も高くなっている。一方で、社会参加を希望する高齢者がおよそ8割にのぼり、元気な高齢者が増えていることから、高齢者が健康で生きがいを持ち、仕事や社会貢献活動など様々な形で社会参加する「はつらつと輝く社会」づくりという視点で将来を展望し、社会参加を促すための環境整備と普及啓発などを進めていく必要がある。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)  
 高齢者がその知識や経験を生かし、生涯現役のプレーヤーとしてはつらつと輝く「日本一高齢者が元気な秋田」という目指すべき高齢社会をつくる。

(重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況  
 ニーズを把握した対象  
 受益者 一般県民 (時期: H26年 09月)  
 ニーズの把握の方法  
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット  
 その他の手法 (具体的に)  
 ニーズの具体的な内容  
 一層の高齢化の進展や団塊世代の65歳への到達など社会情勢の変化を踏まえ、「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」の策定にあわせ、4年間(H26~H29)を計画期間とした「はつらつ高齢者輝きアクションプログラム」を策定した。H25「県民意識調査」では、社会参加や仕事をしたい60歳以上の高齢者の割合が84.3%と高く、社会参加のきっかけづくりが必要である。

4. 目的達成のための方法  
 事業の実施主体 秋田県  
 事業の対象者・団体 県民  
 達成のための手段  
 高齢者が生涯現役のプレーヤーとして社会を支え、はつらつと活躍していく秋田を構築するため、60歳以上のシニア世代が持つノウハウやスキルを最大限に引き出し、社会参加や地域貢献活動はもとより、地域の活性化及び地域課題の解決に向けた活躍の場を創出する。また、高齢者の社会参加促進を県民運動として推進し、県民の気運醸成を図る。

比較した代替手段及び選択した手段の有効性

現状の制度では、意欲的な高齢者が社会参加に取り組むきっかけや、地域の経験豊富なシニアの能力を發揮させる場が少ない。また、地域や企業の求めるニーズと人材供給にミスマッチが生じていることから、地域との関係性に強みを持つNPOや共助組織を活用した取組を実施し、経験豊富なシニアを活かす仕組みづくりが必要である。

把握していない場合の理由及び今後の方針	
理由	
今後の方針	

5. 事業の全体計画及び財源										単位(千円)
順位	事業内訳	左の説明	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体(最終)計画	
01	はつらつシニア発掘事業	シニア世代が持つノウハウやスキルを最大限に引き出し、社会参加や地域貢献活動はもとより、地域の活性化や課題解決に向けた活躍を促進する。	9,850							
03	はつらつ高齢者輝きアクションプログラム推進事業	はつらつ高齢者輝きアクションプログラムに基づき、高齢者の社会参加を促進する。	1,619							
財源内訳		左の説明	11,469							
国庫補助金		地方創生先行型交付金	9,634							
県の債										
その他										
一般財源			1,835							

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

**事業の期待される成果** 経験豊富なシニア世代の意欲を適材適所に発揮させることにより、地域の活力を維持するとともに、生き甲斐を持つことで、社会参加を促すための仕組みがつくられる。

指標	指標名	発掘したシニア人材の地域デビュー者数（累計）							指標の種類
	指標式	発掘したシニア人材の地域デビュー者数（累計）							成果指標 業績指標
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終年度
	目標a				15	30	45		
	実績b	データ等の出典							
	東北 全国	地域活力創造課調べ							

把握する時期 当該年度中 月 翌年度 04月 翌々年度 月

指標	指標名								指標の種類
	指標式								成果指標 業績指標
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	最終年度
	目標a								
	実績b	データ等の出典							
	東北 全国								

把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月

指標を設定することができない場合の効果の把握方法  
 指標を設定することが出来ない理由  
 \_\_\_\_\_  
 見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)  
 \_\_\_\_\_

**事業の必要性**

**現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性**  
 高齢者は、社会の重要な構成員としての役割を担い、意欲と能力に応じて社会を支えることができる存在であり、一律に「支えられる人」であるというこれまでの高齢者観を変え、新しい積極的な高齢者像を描き出すことが必要である。

**住民ニーズに照らした事業の必要性**  
 元気な高齢者が自らの意識に基づき、できる範囲で趣味や学習、仲間との交流やグループ活動など様々な社会参加を行うことは、生きがいと充実感を得ていくうえで、大変重要である。

**事業の県関与の必要性**  
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの  
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

高齢者が社会を支える一員として様々な分野で活躍し、はつらつと輝く社会づくりを進める県民運動を展開することで、「日本一高齢者が元気な秋田」という目指すべき高齢社会をつくる必要があるため。

政策評価委員会意見	
重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定	

重点事業                      その他